

OpenClaw と Manus AI の多面的比較レポート：メリット・デメリット・リスクの徹底解説

Manus

1. はじめに

2. アーキテクチャと基本概念の比較

OpenClaw と Manus AI の最大の違いは、その実行環境とオープン性にあります。

OpenClaw は、MIT ライセンスで提供されるオープンソースの自律型 AI エージェントです。ユーザー自身のローカルマシンやサーバー上で動作し、データやメモリは Markdown ファイルとしてローカルに保存されます [3]。WhatsApp、Telegram、Slack などのメッセージングアプリと統合され、バックグラウンドのデーモンとして設定された間隔（ハートビート）で自律的にタスクを実行します [3]。

一方、**Manus AI** は、クラウドベースの SaaS 型 AI エージェントです。ユーザーはサーバーの構築や設定を行う必要がなく、Web ダッシュボードから自然言語で指示を出すだけで、ブラウジング、データ分析、コード実行などの複雑なタスクをクラウド上で処理します [2] [4]。2026 年 1 月に Meta 社によって約 20 億ドルで買収され、現在は Meta のインフラストラクチャ上で稼働しています [1] [5]。

比較項目	OpenClaw	Manus AI
提供形態	オープンソース (MIT ライセンス)	クローズドソース (SaaS)
実行環境	ローカルマシン / 自社サーバー	クラウド (Meta 社サーバー)
インターフェース	メッセージングアプリ (Slack, Telegram 等)	Web ダッシュボード

比較項目	OpenClaw	Manus AI
データ保存	ローカル (Markdown/YAML 形式)	クラウド (アカウント紐付け)
カスタマイズ性	非常に高い (3,000 以上のスキル)	限定的 (提供される機能に依存)

3. メリットの比較

OpenClaw のメリット

- **完全なデータプライバシーとコントロール:** データはすべてローカル環境に保存されるため、機密情報や個人情報を外部のサーバーに送信することなく処理できます [1] [3]。金融や医療など、厳格なコンプライアンスが求められる環境に最適です。
- **高い透明性とカスタマイズ性:** ソースコードが公開されており、監査が可能です。また、コミュニティによって作成された 3,000 以上の「スキル」を追加することで、独自のワークフローを構築できます [1] [2]。
- **リアルタイム処理とメッセージング統合:** 普段使用しているチャットツールから直接操作でき、在庫管理やリード獲得などのリアルタイムなデータ処理と即時通知に優れています [2]。

Manus AI のメリット

- **導入の容易さと利便性:** サーバーのセットアップや複雑な設定が一切不要で、アカウントを作成すればすぐに利用を開始できます [2]。非エンジニアのビジネスユーザーにとって非常に魅力的です。
- **強力な自然言語処理とリサーチ能力:** 高度な NLP エンジンを搭載しており、複雑なリサーチ、データ収集、レポート作成を自然言語の指示のみで完結させることができます [2]。
- **マルチエージェントによる高度なタスク実行:** 複数の専門的なエージェントが連携し、長時間のタスクや複雑な問題解決をバックグラウンドで自律的に処理します [4]。

4. デメリットの比較

OpenClaw のデメリット

- **技術的なハードル:** インストール、環境構築、API キーの設定など、利用開始までに一定の技術的知識が必要です [2]。
- **ハードウェア要件:** 基本的な動作は軽量ですが、複雑なタスクやローカル LLM を稼働させる場合は、十分なスペックを持つ PC やサーバー（VRAM 24GB 以上など）が必要になる場合があります [3]。

Manus AI のデメリット

- **ブラックボックス化とデータコントロールの欠如:** クローズドソースであるため、データがどのように処理・学習されているか監査できません。Meta 社のインフラを通過するため、機密性の高いビジネスデータの入力には適していません [1] [6]。
- **不透明なクレジット消費:** サブスクリプションに加えてクレジット制を採用していますが、複雑なタスクを実行する際に消費されるクレジット量が事前に予測しづらく、途中でクレジットが枯渇してタスクが中断するケースが報告されています [1]。

5. リスクとセキュリティの多面的な比較

AI エージェントを業務に導入する上で、リスク管理は最も重要な要素の一つです。両者は全く異なる種類のリスクを抱えています。

OpenClaw のセキュリティリスク

OpenClaw のリスクは、主にオープンソース特有の脆弱性と過度な自律性に起因します。

- 1 **サードパーティ製スキルの脆弱性:** コミュニティが作成したスキルには悪意のあるコードが含まれている可能性があります。実際に、プロンプトインジェ

クションを利用してユーザーデータを盗み出すマルウェアスキルが発見されており、監査なしでのインストールは非常に危険です [3]。

- 2 **自律実行による予期せぬアクション:** ハートビート機能により、ユーザーの承認なしにメール送信や決済などの不可逆的なアクションを実行してしまうリスクがあります。重要な操作には必ず「ヒューマン・イン・ザ・ループ（人間の承認）」を設ける必要があります [3]。
- 3 **ネットワークの露出:** 適切なネットワーク設定を行わずに公開インターネットに接続すると、WebSocket ハイジャックなどの脆弱性（例: CVE-2026-25253）を突かれ、リモートコード実行（RCE）を許す危険性があります [3]。

Manus AI のセキュリティ・プライバシーリスク

Manus AI のリスクは、主にクラウドへのデータ集中と地政学的な要因に起因します。

- 4 **データ漏洩とプライバシー侵害:** ユーザーのブラウザ履歴、クッキー、入力された機密ファイルがクラウド上で処理されるため、管理が不十分な場合、情報漏洩のリスクが伴います [6] [7]。特に Meta 社による買収後、データが Meta のインフラでどのように扱われるかについて懸念が高まっています [1]。
- 5 **地政学的リスクと規制の不確実性:** Manus AI の開発元は中国にルーツを持つシンガポールのスタートアップです。Meta 社による買収後、中国当局がこの取引に対して国家安全保障上の観点から審査介入を行っており、経営陣の出国が制限されるなどの事態に発展しています [5] [8]。このような地政学的な摩擦は、将来的なサービスの安定供給やデータ保護方針に影響を与える可能性があります。
- 6 **ハルシネーションと誤情報の拡散:** 複数の AI が連携して処理を行う過程で、誤情報が補強されたり、意図しないデータが結合されたりするリスクがあります。生成された内容をそのまま外部に発信することは危険です [7]。

6. 料金体系の比較

コスト構造も両者で大きく異なります。

項目	OpenClaw	Manus AI
基本料金	無料(ソフトウェア自体は\$0)	サブスクリプション制 (\$20, \$40, \$200/月) [9]
従量課金	LLM プロバイダーへの API 利用料	プランごとの月間クレジット制限
コストの予測可能性	API の利用頻度とモデルに依存	クレジット消費が不透明で予測困難
無料枠の活用	スタートアップ向け無料 API クレジット等で実質\$0 運用が可能 [1]	無料枠はあるが、複雑なタスクには不十分

OpenClaw はソフトウェア自体は無料ですが、Anthropic や OpenAI などの API 利用料が発生します。設定を誤ると API コストが急増するリスクがありますが、各種無料クレジットプログラムを活用することで運用コストを抑えることが可能です [1] [3]。

Manus AI は月額\$20 から\$200 のプランを提供していますが、複雑なタスクは大量のクレジットを消費するため、ヘビーユーザーにとっては想定以上のコストがかかる可能性があります [1] [9]。

7. ユースケース別の推奨

以上の比較から、それぞれの AI エージェントは以下のようなシナリオに最適です。

OpenClaw を推奨するケース:

- 金融、医療、法務など、**厳格なデータプライバシー**が求められる業務。
- 社内システムや独自のデータベースと深く統合した**カスタムワークフロー**を構築したい開発チーム。
- Slack や Telegram などのチャットツール上で、リアルタイムな通知や処理を行いたい場合。
- インフラ管理の知識があり、API コストを自己管理できるユーザー。

Manus AI を推奨するケース:

- 環境構築の手間をかけず、**すぐに高度な自動化**を始めたいビジネスユーザー。
- 広範な Web リサーチ、競合分析、レポート作成、プレゼン資料の自動生成などを頻繁に行うマーケティングや企画部門。
- 機密性の低い一般的なデータや公開情報を扱う業務。
- 月額サブスクリプション費用を支払う予算があるチーム。

8. 結論

OpenClaw と Manus AI は、どちらも 2026 年の AI エージェント市場を牽引する強力なツールですが、その選択は「**透明性とコントロール**」を取るか、「**利便性と即効性**」を取るかのトレードオフになります。

OpenClaw は、オープンソースの強みを活かした高いカスタマイズ性とローカル実行による強固なプライバシー保護を提供しますが、セキュリティの自己管理と技術的なセットアップが求められます。一方、Manus AI は、圧倒的な使いやすさと高度なリサーチ能力を誇りますが、クローズドな環境でのデータ処理に対する懸念や、Meta 社買収に伴う地政学的な不確実性というリスクを内包しています。

組織のセキュリティ要件、技術的リソース、そして自動化したいタスクの性質を慎重に評価した上で、最適なエージェントを選択することが重要です。

参考文献

- [1] Get AI Perks. "OpenClaw vs Manus AI: Open-Source vs Cloud Agent in 2026". <https://www.getaiperks.com/en/blogs/11-openclaw-vs-manus-ai> [2] Thunderbit. "OpenClaw vs Manus AI: Feature-by-Feature Comparison Guide". <https://thunderbit.com/blog/openclaw-vs-manus> [3] Milvus Blog. "What Is OpenClaw? Complete Guide to the Open-Source AI Agent". <https://milvus.io/blog/openclaw-formerly-clawdbot-moltbot-explained-a-complete-guide-to-the-autonomous-ai-agent.md> [4] Manus Documentation. "Welcome - Manus Documentation". <https://manus.im/docs/introduction/welcome> [5] Nextword. "Meta Buys Manus: Shifting Currents at Meta". <https://nextword.substack.com/p/meta-buys-manus-shifting-currents> [6] WOZ. "Manus AI は本当に使って大丈夫？便利すぎる自律型 AI の

危険性と安全な使い方". <https://woz.co.jp/webmaster/manus-ai-safety/> [7] SHIFT AI TIMES. "Manus の危険性とは？誤情報や情報漏えいのリスクと安全対策". <https://shift-ai.co.jp/blog/37864/> [8] The Washington Post. "China bars executives at Meta-owned AI company from leaving". <https://www.washingtonpost.com/national-security/2026/03/25/meta-manus-china-executives-banned/> [9] Manus. "Manus のプランと料金". <https://manus.im/ja/pricing>